

団地／それぞれの住まい歴調査 vol.2

■日時：2013年3月28日（木） 15:00~16:30

■場所：男山団地中央センター1階 喫茶 woods & Bonita

■参加者：

◇居住者

・Uさん

◇KSDP メンバー

・星田：H

・安原：Y

・永井：N

・芦田：A

Y：団地に住んでいられなくてもこのご近所に住んでいられなきゃなら、べつと一緒に話していただいたら、差し支えなければどうぞ一緒に、それやったらここもうちよっと広げて。

Uさん：良いとこですよ。

Y：趣旨というか、どういうことをお話しいただきたいかということは、N君からもうすでにお聞きいただいていますか？

N：ほんとに思い出話をしていただいたら。

Uさん：思い出…いい思い出ですよ、だから子供もここで、えっと、全部、学校も全部卒業していきましたしね。

Y：ああ、お子さんが。

Uさん：ええ。あの結婚して遠くに行っただけですけど、なんかこうまたつれあいのあれで大阪の方に行くようだったら男山に住みたいって、言っていましたからね。

Y：そうですか！へえー。

Uさん：子育てするにはいいとこですよええ。

カフェの女性客たち：ええ、良いとこです。最高です。

Y：そうですか。何年ぐらい？

Uさん：私はねえ、1980年ですのて33年目です。

Y：そうですか。

Uさん：でも、あれできたのが昭和47年だったかな？40年たっているのですねこの住宅は。

子育ていいですって！だから若い方たちが、また住めるようになったら、また若い方たちが来た時には、今の桜小学校がいっぱいだったのて、第3が第5に別れたのですね。

それでまた去年あたりですか、統合になりまして、元に戻りまして。

Y：子供たちいっぱいいたのですか？

Uさん：いっぱいいたのです！ちょうど、団塊の世代の人たちの子供たちが育つ。

Y：お子さんは何人いらっしゃったのですか？

Uさん：2人。

Y：2人、で、お2人とももうここで？ここで生まれて？

Uさん：いや、東京から来ましたのて、東京の方はなかなか公団が当たらなかったのて。

Y：ああ、その当時の公団はね。

Uさん：それで10回とかこう、はがきをためていつて、それであのー。

Y：優先順位。

Uさん：優先順位とあって、で、あの当時は多摩のほうがちょっとあの、わりとどれか。

Y：そうですね、みんなそうですね。

Uさん：で、それからあの一番、高島平のあたりは、だいぶ古いですからね、でもあそこは建て替えられたのですか？

Y：んー、まだ土木的にだと思えますけどね。

Uさん：ああそうですか。じゃあ老後ね、ここどうするのよねってもう私たちの話ですけどね。

Y：ま、その時代になっていますよね、今、みなさんはね。

Uさん：ねえ、男山の1000戸が対象になっているし、どうなるのかしらねって巷でそんな噂になっているのですけども。

Y：そうですね、そういうのもまた重要なポイントですから、これからどうなるかっていうことは。

Uさん：生きている間にならないとあって、前だから300棟の方、分譲の方、あれは民間の所だった、一気にこうきれいになって、あれもこうだいたい20年ぐらい前からお友達。

私たちのところはここからこう階段、壊れていくっていったら、E棟とか300棟とかが多かったですね300棟E棟にいつて

Y：それは分譲のどこ？

Uさん：分譲のところですねえ、それで後はまあ一軒家に行く人もいますのですけども、結構、300棟とかE棟に行かれる方も多かったですね。だから300棟のあたりだと、もう高層の方になったら、建て替え、それも20年ぐらい前？そんな話ありましたよね？

女性客：ありました。

Uさん：300棟ねえ、一部屋付け足すとかね、でもそれもだんだんだんだんなんも行動移さないから、もうみんな年取ってきたから、今さらそんなこともできないしとあって、なんか聞こえてきます。

女性客：おくさんって何年？

Uさん：私33年なの、いや、転勤で来たから3年で帰るつもりだったの、大阪と京都見物して。

女性客：最初に入った人だったら40年だね？

Uさん：そう40年、47年ぐらいの、だから、お隣の階段？あの端の階段の人は最初から入った人結構いらっしゃるのてしょう。

女性客：うちは一階のPさんと、3階の…。

U さん：Q さん？

女性客：あの人もそうじゃない？

U さん：私さっきもお友達に電話したのだけど、さっき、
今日用事があるってゆうのですね。

あっちは一番端の方は皆さん結構残っているのでもいい
関係なのですよ。うん、お掃除してもできて。

Y：今いらっしゃる所は、上階にいるのが悪いんですね？

N：はははは。

Y：ふっふっふっふ。

N：上の階に。

Y：今いらっしゃる、いやいや、これは冗談ですけどね。

U さん：ええ。

Y：今のその階段の話ですけどね、今お住まいになっている
階段は。

U さん：はい。

Y：上の階に良くないのがいる。

N：へっへっへ。

Y：ふっふっふっふっふ。

U さん：？

N：僕なのですけど、あの一。

U さん：ああ、彼？いやいや、断然！若い人たちが入っ
てこられたらすごくうれしいですよ！

Y：いやいや、もちろん彼はいいのですけどね、今度彼が。

N：はい、実は。

Y：これからご挨拶に、するらしいですけど。

U さん：ええ、ええ。

Y：次、続いて彼が。

U さん：どちらに入られるのですか？

N：ぼくが卒業して。

U さん：ああ、その後。

N：彼に。

U さん：よろしくお願いします。

N：A というので、はい。

Y：またあとでごあいさつに。

U さん：就職されるのですか？

Y：彼は東京に行くのです。

U さん：ああ、東京行かれるのね、あそう、東京のどちら
に？

N：東京の文京区ってところで、職場が。

U さん：東京もずっといました。

N：来られた時お子さんはまだ小さかったのですか？

U さん：小学校と幼稚園でした、だからあのときなるみ幼
稚園ってのが、あそこもすごくいい教育してくださっ
てね。

Y：ああそうですか。

U さん：あれもうれしかったです。ええ、私立の幼稚園で
したけどねえ、ええ、園長先生ってのが、やっぱりこ
うゆう、老後にこうなることが分かるから、その保育
園と、老人ホームみたいなものを、一緒につくりたい
ってゆうので、30 何年前にやってらっしゃいました。

Y：ああそうですか。

U さん：年寄りは年寄りで、話しをするって、やっぱり子
供の声が聞こえる、そういうところで老後も、行事も
そういう街づくりみたいなことがしたいって。

Y：そうですね、それいいことですよ。

U さん：だからここはこういう快適な建物なので、子育て

したらがばって抜けて行って、だからここ結構流動性
がないのですね、色んなこう、バリエーションが建
っていたら。

Y：はいはい。

U さん：それでエレベーターでもあったら、年寄りになっ
たら上にこう行くとかして、香里のあれ建て替えにな
った時見に行ったのです。あれ A,B,C までですかね？
たしか A,B,C までだったと思います。香里団地の方は、
分譲の、それで A かなんかできたとき、見に行ったの
です。

Y：そうですか。

U さん：そしたらもう、ホテルみたいでしたね、新しくな
りまして。それで、えっとお年寄りの方は 80 ぐら
いの方はちゃんと畳の付いている部屋でエレベーター
ちゃんと付いている部屋で、子育てする人たちは下の、
ドタバタしてもいいところって言って、こうちゃんと、
移動のきく住宅に造り変えていますんでね。

Y：そうですね、まったくそのとおりですね。

U さん：そうですね、そうゆうのが男山にもできるかな
って期待したら、できなかったのです。それでちょ
うど知り合いの方が C 棟にいたのですね、香里の方に、
その時まあ、C まで建て替えて、向こうも D か E ま
であるらしかったのですけど、C までは建て替えられ
るっておっしゃっていたので、あの一、マンションは
買わないで、そこでいったら、ホテル住まいみたいだ
ったってご主人が、そうなったのですけどもしょうが
ない、快適なものですから。

Y：建て替えないまでもですね。

U さん：ええ。

Y：あの一、造り直しというか、あの一、改造してい
てですね、そういうことができるようにするとかですね。
色んな方法があると思うのですけどね、今住まわれて
いる方々が、そうなったらいいのになってことをね、
どんどんまたおっしゃったら、またそんなふうになっ
ていくかもわからない。

U さん：うーん、でもどうなのですか？男山がいつせいに
減らすとなったら、A 棟とか B 棟とかみんな塗り替え
になってきれいになっているでしょ、これから C とか
D はまだですよ？

でも D は C よりもせまいですよ？そうすると、1 人
の状態になっても、まあ我々みたいになっても、ちょ
うどよい住み心地の場所なのですかね？

Y：ああ、その狭いということが？

U さん：ええ、ある程度こうねえ。

Y：ええ、そうかもしれない。

U さん：それと、後はこの、今までの、公団って、私
たちが何十年前に入った公団とかと違って、入るのが楽
になっていますよね？

Y：入ること自体はね。

U さん：自体はね、そうすると、個人情報だから名前を出
さない人も多くて、まあそれはそれでしょうがないと
しても、なんというのかしら、民間の人だって保証人
の人がいないとだめだって、しっかりした人しか入れ
ませんよね？で、公団の場合だったら、婚約する時も
全部そんな、きちっとして出さないと、婚約者の名前
もきちっとして出さないと入れなかったですよ？

Y：このごろそうでもなさそう。

U さん：ないのですよね。で、こないだお友達かなんかも広告で入っていて、紹介したら一万とか、入る人も一万とかってもらったわよとか、聞くのですよね、だから、私わかんないです、自分が長年入っている、その一国の財産で、国民にこうするって、私も農家の生まれで、山形の生まれなんですけど、庄内平野の当たりなのなんですけど、それでみんな東京に出てきたわけですよ、そのためのこういう住宅政策ですよ。農村世界からこうなってきて、都市部になってきて、それでもっと返すような、その江戸時代の天保の改革のような返すような、IT 社会の時代になってどこでもできますよね、ある程度、その時に国の財産としてのこの建物を国はどうしようとなさってるのかって、逆に私たちはなんの意見を言ったってしょうがないから、国は、この国の財産をどうしようとなさってるんですかねって。

Y：それはほんとにそのとおりです。

U さん：私ほんとうにそう思うのです。

Y：そしてその声がもう少し一つになってですね、あの一政策に反映しなければならぬ。

U さん：そうですね。それで、あとは何しろ、年寄りはいられないのですよね、そうするとうちの姉なんかはまあそういう施設に行くのですけど、なんぼお金持ってたって、都会並みのケアハウスはできないです田舎は。でもその地元を離れられないって、まあ色々です。それで…国はこの財産をどうするのですか？

Y：と、いうことをみんな思っていますよね。それで、それははっきりした方向が見えてないですよ。

U さん：それで、あの一、減縮社会。

作るとかなんとか言っているけど、だったら、一万いくらですよ、だったら、こないだの朝日新聞にもいろんな住宅の問題出ていたけども、もお、なんか、わかりません。

なんかまじめに暮らしていて、まじめに税金おさめている人たちはなんかちょっと違うじゃないのってみんな思うようになりましてねえ。それはこの住宅を見ても見えるところがありますんで、なんかさみしいような気がします。

Y：そうですね。みんながもっと想えばいいのです。

U さん：そうですね。それでもっと自分で、ほら、橋下さんかなんかが自立する国民、個人とかって、自立する個人とかって書いていたでしょ。だから、あれ、昔の日本とかさうでしたよね。なんかねえ、なくっていいです。住んでいても、住宅に関係ないかもしれないですけども。

Y：いやいや大あります。

U さん：その、意識して。だから私こないだも、掃除とかあったのですけど、自治会活動も、ほらやっぱり、入っていますしね、日本国民自体が、その一…衣食住っていいですけど、どうなのですかね。

Y：一番大事なところが、すぼと抜けていますよね。

U さん：そうなのですよ。で、あの、都会に住んでいてこうした人はさほど考えないのでしょうけど、こう東北とかさうみんなであって、こうちょうど日本経済がこうなるときに、住んでいた人たちが、あそこはなん

とかかんとかってあったけど、今はもう何もないわけですけどねえ。まあさうゆうのをみていると、私はこういう住宅はあって助かりましたけども、ほんとに助かりました。でも、こういうところに入るのはいやだって人は入らないですからね、だからその入るのは嫌だって言うところがもっと強くなったような、感じが、このごろするので、気持ちよくなって住んでいるのになんかさみしいと思いませんか？

Y：まあ長い間住んできた、その結末がこれかと。

U さん：うん、だから、そ一、そのお金あるとかじゃなくてね、その一、もっとこう心豊かに、その一、住める人たちだったのですよ。ここへ来たときは、結構安くない家賃だとおっしゃっていたけども。

Y：勢いのあったころは、そういう雰囲気だったのですけどねえ。

U さん：だからなんかその、なんか、なんていうのかな、人となり面白くなって、だからさっきも話していたのですけど、なんで私たちほんとにみんな何かするって言ったら、ほんと草取りも全部するのですよ。その、全部、みんなでしたのだけでも、そういう動きなくなってきましたね。結局名前すらもわからないし、その深く関わることはないのですけども、あまりに出ないし、どういう形で何人入っているかもわからないし、ご夫婦なのかもわからないし、兄弟なのかもわからないし、親子かもわからないし、でも国はそういう方向に行って、個でいくのならいいのですけどね、個で、全部。

Y：個はいけません。みんな一緒に住んでいるのですからね。それがその全部個だということは決していない。

U さん：だからフランスでも出生率が上がっているって言っても、半分くらいは別ですって言っていましたもんね、だからそんなことも考えて…どんなこともう、わかりません、私たちの代みたいにかきつとしていてこう、検査も厳しくって、抽選で入った当時の人たちからしたら、今はわかりません。それで広告が出てきてこの間まで、三千、一万、あらでも埋まらない、独立行政法人だったらまたこう、やっていかなくちやいけないところもあるのでしょうけども、わかりません。えー、内情も、それと、色んなこう抱える住宅が全部こういういろんなところが一緒になったのですか？管轄が、それもわかりません。住んでいる人たちは。

Y：UR の？

U さん：はい。UR はある意味で、独立法人におとして、それだけでいっているのですか？ここだけ、UR だけ？

Y：UR はUR だけ。

U さん：でも住み心地はすごくいいです。環境的には。

Y：そういうこと全体もまだまだ、解決しないといけません。その、昔の話にちょっと戻しますけどね、お子さんがどんどん大きくなっていつている頃、もういっぱい子供たちがいっぱいいた？

U さん：うん、そうですね。

Y：そういうのは、みんなお互いにこうなっていた、あの一一緒に住んでいるという。

U さん：ああそれはありましたよ。でも、その代り同年代の人が多かったですよ。

Y：そうですね。

U さん：そうです。そうです。だから抜けるときはがばっと抜けちゃうのです。

子供たちもがばっと抜けるし、それで、えー、あの一、近場で、二人になったから行きましようかって、そこに行く人もいれば、ここがいいわって残っている人もいるし…

N：そうですね。

Y：がばっと抜ける、抜ける一番の理由はなんだったのですか？

U さん：一番の…えーでも子供たちが独立して、出て行った。

Y：そういう意味の抜けるって意味。

U さん：ええ、同じ世代が、バンと抜けるのです。

Y：独立してよそへ移るっていう。

U さん：そうです。そうです。

Y：はいはいはいはい。

U さん：あの、悪くてどうのってことじゃなくて、ちょうど同じくらいの人たちが。

Y：そりゃ、そうなりますよ。

あの当時子育てしている人は、どっとう入ってきましたからね。

それが上がって行って、抜けてたってだけで。

それはもう日本中で起こっていることです。

U さん：そうですね。そして今度そのフォローの仕方はどういう感じが、今みたいなフォローの仕方だと、わかんないのですね、もっと厳しくして、あの、こういう感じで入ってきたのだねってわかったらいい。私たちの時はこう厳しかったけど、今は、友達から聞いたのですけど、敷金もいらないのですってとかって。

Y：そうですね、入りやすくなったのは。

U さん：そうなのですよ。敷金もいらないのでって、わからないねってこの前、話してきたの、それすらも入っている人って知らないですもんね。

Y：入りやすいことは、あの、抽選で外れるということに比べたら、なかなかいいことなのですけどね、それが、無責任な形になってきている。とまあ感じていらっしゃる。

U さん：あの、民間のほうは緩やかなのですかね？民間はもっとそれこそ保証人がいないって、でもお年寄りもなってきた、保証人も誰も、私たちもそうなるでしょうけど、その受け入れ態勢を国はどういう対処で、という人を受け入れるかって、住宅で受け入れるって方法は、だったら、国民を納得できますけども、過度期になってしまった。

Y：過度期じゃなくて、末期かもしれません。ふふふふふふ。

U さん：あ、末期なのですか。

Y：まあそれはちょっと、うんあの。

U さん：だから同じ末期でも、あの快適な末期にしてほしいのですよ。

Y：でも、一度そういうその、峠を越えないとね、次新しい展開というかね、なかなか起こってこない、というような意味の末期かも分からへん。

U さん：でも、その、その、末期で次の展開がいい方に行くって言ったら、どうするのですか？

Y：そういうことですよ、どうなったらいいと思います。

U さん：それはね前にもね、案が出ていてね、なんか面白いのなんか、幻のなんか見せてもらいました。

Y：それは建て直しの案？幻は。

U さん：なんかねえ、幻の案はねえなんか、あっちの方でした。案は出ていました。

Y：そうするとパッと、分譲の所の話をして。

U さん：それもありましたしなんかD棟のほうも。

Y：高層ができるとか？

U さん：高層でも、あそこに高層ができるっていうのだったら市の条例かなんか変えないといけない。

Y：そう簡単にはできないですよ。

U さん：できないですか。そしたら、300棟もできませんね。

Y：そんなところに、ものすごい塊ができたら大変じゃないですか。せっかくの男山に。

U さん：だから、だからうわさがそんな話が、こう、聞こえてきますけども。私たちあっちの住人じゃないのかわかりませんが、でも、あの京都新聞か何かの、建て替えの話かなんかありましたけど、書いてありましたよね？京都新聞かなんかの新聞報道にも。

Y：ずーっと、長い間ありましたけどね。

U さん：ありましたよね。

Y：でも、なかなかまとまらない。とか、そのうちにだんだん世の中の方が変わって来て、また、方向性を失っているというか、あるのでしょうね。

U さん：でも、良いとこです。あの樟葉のところの。

Y：そのいいところいうところを最初からずっと一貫しておっしゃっている。

U さん：ええ。

Y：何が一番よかったですか。

U さん：やっぱ環境がいいですよ。だって、断然民間の所と違いますでしょ、公団の建物は。

N：日当たりはすごくいいですね。

U さん：すごくいいよねー。

Y：それは、もう。

U さん：もうまったくこれ、これです。

Y：それは国の方針としてですね。そこに行き着いたんだったら。これは末期がなくって、すごく…。

U さん：すごい、良いですよ。すごい良いです。

Y：そのすごくいいものを、これからもっと良くしていくとか、よく使っていこうということになるんです。

U さん：そう、これは絶対です。これはもう、絶対です。だから、少々のがあってもこのお日様の光だけは欲しいって言われますよ。

Y：それはもう確定で。

U さん：でも、あまりにもなんか自分も年取って来て、人さまのお世話にならなくなった時には、出ていかなかんなどと思っています。

Y：ふん。

U さん：エレベーターもないですしね。3階だからね。

Y：そうですね、3階ですか。

U さん：3階です。1階の方はバリアフリーにしてね、お年寄りの方もいらっしゃるから、1階のほうはいいんですけどね。

Y：うん、そうですね、で1階の人が、早く年を行くというわけではありませんしね。

Uさん：そうですそうです。ええ。それでも1階は湿り気もあるし、物騒だから、2階が一番いいねってことになると、2階は、2階まで何とか上がれるまでって思いますよね。快適ですよ、ねえ。

N：そうですね、けっこういろんな方の話を聞いていると、その、お歳をとったから1階がいいっていう人と、やっぱり、その、Uさんみたいにやっぱり、下ドタドタできるからって若い方がいいって。

Uさん：そうそうそうそう。

N：いろんな方が。

Uさん：そうなのそうなの。

N：それが今選べないですよ。

Uさん：それがだから子育てする人たちなんかは、2戸1にしてあげてね、構造上なんにもないんだったら2戸1にしてあげて、ほんでもう、ちびたちをね、これだけの所で、きれいなところでね、ドタバタドタバタ子育てしてあげたら、いいと思いますよ。

Y：ですね。

Uさん：ねー。

Y：子供たちは外で走り回っている、そういう状態を想像したいですね。

Uさん：そうですね。

Y：みーんな家の中にもこもって、なんか、パソコンと遊んで。

Uさん：そうです、でそれも何十年も前から言われてましたけど、でもうちの孫たちはここへ来たら手を繋いで歩いてる子供たちがいたら、孫がまだ7つぐらいの時いましたもんね。

いやー、ここは子供たち同士で手をつないで歩けるって、それで娘と、まん前に公園があるんですけど娘と、やっぱり物騒で親が付いてる、でもやっぱりちっちゃい子でも、子供同士で手をつないで歩けるって言うのはやっぱりショックでしたよね、そういうふうに戻してあげたいけど、無理ですね。やっぱり年寄りがもっと外に出ておしゃべりして、その中でこう、子供たちが遊べる環境に戻すって、無理でしょうね。

Y：いや、無理かどうかはわかりませんよ、そういうようになったらいいなって。

Uさん：いいですよーね。

Y：こういう場所だって、今まさにその形になりつつあるんじゃないですか。

Uさん：それと私いつも思うんですけどこちらの東公園ってご存知ですか？

N：えーはい。

Uさん：あそこ、あれが私理想なんです。あの周りにずーっと住宅があってこういう所があってみんながそこでお茶飲んで、そこで遊んで、それで公団が建ったらわあええなって、あれが理想です。

N：男山はすごい公園見たいですけど、全然関係ないですよ中と外がね。

Uさん：でしょ？

N：ええ、すごく緑豊かなんですけどねえ。

Uさん：こう、中途半端なんです。

N：ぼくらはやっぱりいろいろ提案とかさせていただいて、1階の方なんかねえあんな裏広いのにそのまま地面に降りれたらいいのにねえなんて。

Uさん：そうそうそう。

N：ガーデニングとかできますしね。

Uさん：でもガーデニングっていったって、無理なんですよ。

N：それがねやっぱり、URの管理がね。

Uさん：そう、そういうこと。だってすごいんですよ、まだいいですよ、今京阪で、あのそんな名前出すとまずいですけど、もう、こんなですよ。一階まで草が、だから管理がそういう管理がね、お金を取ると、一昨年、枝切ったのも入ってからでしょ。

N：あー、入ってからですね、去年ですね。

Uさん：でしょ。それで緑がばーってなくなったとは言うんですけど、だから、どう管理されるのかって、私たちにしたら、私たちは何にも言えんそれで、草刈りでもこんな一回だけじゃなくてきれーにしてほしいわ、最初はみんな芝なんだからって言って、で共益費を上げないとだめだよって、共益費100円でもあげてくれて、きれーにしてくれたらいいわって言ったらそんな人ばかりじゃないって、それでD棟をきれいにするっていう時に、何年か前でしたかねえ、ずーとこう芝とか植えて、通路の所も煉瓦の所もこうぜーんぶお花もきれいに置いてあったんですよ、じゃあこの一年後にこの管理は誰がやるのかって。

Y：それは住まわってられる方がそういう風に使ってた？

Uさん：いえいえいえ。

Y：そうじゃなくて。

Uさん：ええ。公団でやっただけですよ。全部やって、それで、芝も全部植えて、全部お花も植えて、それで一番あっちの高層のところもぜーんぶ芝きれいにして、じゃあ今こんなきれいになったけども、植えたのはいいけども管理がならないわけですよ。で、もう後ぐちゃぐちゃですよ。芝植えるんなら、芝をこう刈ってほしいですよ。やったっていうだけでやっぱり管理になってない。で私たちはいやだから取ろう取ろうって言って、1棟のほらこっち側ちよっと芝になってるでしょ。

N：ええ、はい。

Uさん：なってるでしょ、あれあそこに私たち取ってたら住まれてた方が、ご主人が2年かけてあれだけしてくれたの、で、あれ草取ったらあれだけなるんですよ。で、B棟のね、B棟のあっちの方に行くとわかるんだけど、ちょうど10年かけて、70歳で入ってこられて、僕はこれしますって自分のとこ全部芝にして、ほんとにあの方は八十何歳かになりますけども、きれいな芝生に1人でしてくださってます。

Y：その方が手入れしてる？素敵ですね、その話。

Uさん：素敵ですよ。それで私行きたんびにいったら、ちよとぼくはもうA棟もこれ以上できなかったらあれしますけどって言って、12年ぐらいですね、いつどや行かれたら、ここ渡って、まーすぐ行って一つの道路に出る、出る手前の左のマンションですね。ああゆう奇特な方もいらっしゃる。

Y：もっともっとそういう方がいらっしゃったらいいですね。

Uさん：いいですよ、だから。

N：ご自分でされることって、ていうか僕たちは外から見ていて、UR の管理にどういう風に思っているのかなって思ってるんですけど。

U さん：だから草ボーボーだったですよ。

N：それを、なんていうんですかね、自分たちで、できると、自分たちでしていいよって UR に言われた時に、自治会とかでやっぱりしよかなって機運がでてくるかなって。

U さん：それは難しいんじゃないですか、あの一、あの公団で、えっとこうゆう 1 棟と 2 棟の前に花壇を作ってくださったでしょ。

N：ええ。

U さん：あれが、一つ二つ三つありますよね、で丸いのいじらせてねって言って草取りさせてもらってます。それでこっちの方は自治会の方達がやってて、それで丸い所いじらせてって言ってやってんですけど、でその、隣、1 棟の二つ、草ボーボーでしょ。ああやって置いたって、まずやりません。でなんか私は花植えたいし、上から見たいからってごめんなさいって勝手にやらせてもらってますけども、でも今度難しいんですよ、区割があって、あなたの所はこれですって言ったらやれるけども、誰でもいいわって言ったら誰が水かけるのってこないですって。難しいです。ダメです。

Y：そうですね。

U さん：で、あそこ、こう区割りして、じゃああなたはここですってやったら、耕せなかったらあなたがやってねっていうんじゃないけど。

Y：でもその区割りをして云々でも、UR にまかしといたんではこれはなかなか難しいですよ。

U さん：難しいですよ。

Y：生活の実態が分からない人がね、そんなことできかない。自治会じゃないんですかそれやるのは。

U さん：自治会入ってる人も少なくなってきました。

Y：んーいやじゃあ自治会やないもうひとつ違う、違うグループを作ればいいんじゃないですか。

U さん：それを立ち上げるのが大変なんじゃないですか。

Y：それはわかります。誰が立ち上げるかって、これがものすごい大変。だけど。

U さん：NPO あたりがね、そうゆう全国的なその、都市機構の NPO みたいな感じで、考え方もできるでしょうけども。

Y：NPO に誰かが発注しなければならぬ。

U さん：自治会自体が、ほんとにさみしい限りで。

Y：それはわかります。

N：僕たちはその提案の中で自治会、今の自治会ではない新しい組織っていうのが、そんな簡単にはできないんで、たぶん 10 年くらいかけないと出来ないんでしょうけど、そういうのを何とか作って行って、みんなで参加する、今のあの、例えば E ラウンジとかあるじゃないですか。ちっちゃい。

U さん：はい。

N：自治会の人が使っていて、なかなか他の人が、水漏れとかしてそこに入ると、自治会員じゃないから出て行ってくれて話があったとか聞いてまして。

U さん：え？自治会じゃないから出てくられて？水漏れしたら？

N：水漏れしたときに、あそこの E ラウンジに避難した方がいらっしやって。

U さん：あ、あそれで自治会員じゃないから出て行ってくれて。でも、でもあそこの E ラウンジもね、あの、あれ作ったのだって、えっと、C 地区は集会所がないんですよ。

N：ええ。

U さん：ええ、それで、ここの上に、郵便局の上に、注文があるからって言って、C 地区は作れなくて、あの E ラウンジっていう形でつくったんです。でも、D 棟だって立派な集会所があるでしょ。

N：はい。

U さん：で、ここは何にもないんです。で、あれでできる時にこんな中途半端なものおかしいじゃないですかって言ったんですけど、そこでゲートボールするからって言って作りましたでしょ。

N：んー。あれがでも、C 地区に住んでいる皆さんのものにはなっていないかなあという風に。

U さん：ほんとはみんな使ってもいいんですよって、いいんだけど使うのがみなさんまだ、それはね。

N：そうですね、そういうところをなにかこう回避、解決できるような決まりとかね、組織ができればいいなというふうに...。

U さん：どうだろう。だって D だってすごい集会場があるんだから。ねえ。なんかこう、もっとこうみんなに知らせるような感じにして。

N：そうですねっとそういう。

U さん：それで、D 棟立派なんですよ。D 棟の集会場だって、B 棟だってみんなある、C 棟はないんですよ。

Y：元から C はなかったんですか？

U さん：C はなかった、あのほら中央センターの上がありますのでっていうのでなかなか作られなかったみたいです。もう 20 年くらい前なんですかね、20 年近くなるんですかね。

Y：まあ、そういうのはありますよねあれば使うということもあるし、あっても使わないということもある。なかなか難しいことかもしれないですね。

U さん：あの、長野のあのなが生きしてどうのこうのなったとしたら、その、長野の人は公民館が多いんですって？

Y：ええ、まあ。

U さん：すごく良い話題になってましたねえ。ほんとそこに、公民館の所にいって、みんないって、運動とかするから、一番医療費もかからないって昨日テレビでやってて。

Y：そうですね。

U さん：ほんではと思ったんですよ、だからみんなが出て行く場所が近場にあれば良いってことですよ。

Y：団地の中にあつたら良いんですよ。それが。

U さん：そう思うと、一点どうするようなどころって、公民館もありますしね、あの一、C 地区の、公民館もあって。あのここの、この上もありますからね。その兼ね合いはわかんないです。私たちは。

Y：あの公民館ってのは管理が違うでしょ？市のものでしょ？

U さん：あの、はい。

Y: ほんと、ここは。
 U さん: ここは、ここだけ。
 Y: これは UR のでしょ。
 U さん: ああ。
 Y: その管理の区分の違いをこえてね、使う側がどんどん使っていけば、あのーいいんですよほんと。
 U さん: そうですねえ。
 Y: まあしかしね、まとめていく立場になったときに、ちょっと、ちょっと一歩引きますよね。どうしてもね。
 U さん: そうです。
 Y: それを超えないとなかなか動かないですよ。
 U さん: みんな年とってききましたもの長くいる人達ふっふっふ。
 Y: うーん。まだまだ若いんですけどね。まあ若い方が年取った、年取ったと言っても非常に若いですよ。
 U さん: でもねえ、こういう若い人達見てるとねえ...。
 Y: だから若い人が入ってくるのもずいぶん大事な事やし。そやからその若い人がそれをしょって生活していくかどうかの問題がまた課題としてありますよね。若い人が勝手気儘に住んどったんではね。
 U さん: でも、ここの男山は、結構空いてるんですよ。
 N: でもあのお。
 U さん: 720 ですよ。
 N: ここは大体 7、8%空き家が。
 U さん: 1 割近く。
 N: あるんですけど、空き部屋が、でもそれは全国の他の UR に比べたら大体、15%、1.5 割空き家があるので、他の団地に比べると遥かに空き家率は低いですね。だから逆に低いからこそ八幡市とか UR が問題やと思っていないんですよ。もっと空き家が多いとなんとかしないって思うみたいなんですけどわりと空き家率が低いのが故に、すぐに行動を起こさないといけないっていう切迫感がないんですよ。
 Y: なんで空き家率が少ないのかな、住み心地が良いからかな。
 N: 住み心地っていうのは。
 Y: 住み心地っていうのか便利っていうのか色々な意味も含めてね。
 U さん: ここは交通の便もいいですよ。ねえ。
 N: バスも多いですね。
 Y: いいとこなんです。
 U さん: いいとこです。
 Y: だから空き家が少ないんですよ。
 U さん: でももうちょっと快適に住みたいよね。やっぱり思いますね。
 Y: そのもうちょっとというのがね、すごく大事なんです。
 U さん: ええ、だからあの、樟葉から学生さん達がみんな男山に上って来て、活気づいたらいいんですけどね。
 Y: そうそう、それを、どうしたらそうなるかって言う事をみんなで考えていかなあかん段階やと思いますよ。その、だから彼らもね、若い人の立場としてね、こうなったらこっちに来るよっていうことをしてね、どんなん考えてそうしていけば良い。
 N: その中の 1 つとして例えば C2 棟の 305 号室なんですけど。
 U さん: 305、はい。

N: も、関西大学の学生で、あの DIY って制度がありまして、壁の色とかを自由に塗れるんですね。そのモデルルームを僕たちで作らしてもらって。
 U さん: えっ、305?
 N: はい、305 号室です。
 U さん: 今、空いてます?
 N: 空いてたんで。
 U さん: はあー、そうかそうか。
 N: させて頂いて。
 U さん: 今やってるんですか?
 N: もう出来まして。
 U さん: あー、それ言ってたの、で 2 階に、206 にお友達いるんですよ。それでなんかガンガンやってるんだけど、普通のリフォームとは違うって話になって、じゃあ出来たら見せてもらいたいねって彼女が言ってたんですよ。あつ、そこを作ったんですか?
 N: 普通に UR の事務所に行っていたいて。
 U さん: 見せていただけるんですか?
 N: はい。
 U さん: それどんなふうにして作ったんですか。
 N: DIY ってのはすごくこう、柱とかも色々いじるんですけど、床とかも。男山団地はプチ DIY って言う段階までしか許されてなくて。
 U さん: はい。
 N: それは、壁の色を塗り替えるとか、そういう、みなさんで気軽にできるように。
 U さん: ああ、やってくださいって。
 N: はい。是非是非、見に行っていたければ。
 Y: あのー結構ね、華やかっていうかにぎやかっていうか、そういう風に今なってます。
 U さん: 間取りとかは変えてないんですか?
 Y: それが、今行ったら公開してるの?
 N: はい、いつでも。
 Y: それを見られるという事を中の方がご存じないということがね。
 U さん: 知らないです。
 Y: それはいけませんわね。
 U さん: でこないだ、なんかあの、会合するっていうのもちっちゃいの上に貼ってらしたでしょ? こないだ、あったんですね? ここも、向こうの方も。
 N: あの、だんだんカフェ。
 U さん: そうそうそうそう。
 N: はい、やってるんですよ。
 U さん: あれもみんな見過ごしてますよ。でも今回は真っ正面に貼ってあったでしょね、わかりましたでしょ? あの位のおっきい字で、上がってきて真っ正面に貼らないと分かんなくて。
 N: 彼らが貼ったんです。
 U さん: でお友達も、今回は何かあるねって言ってましたよ。なんか前もあったみたいよって、でもこっちに脇に二枚ほどちっちゃく貼ってあったけど、気がついたときには終わってたねーって言ってましたけど。
 Y: それは君たちがおいに反省せなあかん。
 N: それで前につけたんですよ。
 U さん: そう、まっすぐ上っていったらこう 4 月 10 日っておっきく貼ってあったので、あれだったら目につき

ますよ。

N：4月7日は？

A：まだ貼ってないです。

Uさん：10日でしょ？

N：21にワークショップをやりまして、その前に4月7日にまたちょっと「だんだんカフェ」ってみなさんとお茶しながらお話ししましょうって。

Uさん：でも私この前思ったんですけど、こないだえっと、えっと、自治会でやった掃除があったんですよね。ある程度の方が出てこられるから、出てこられるかなって思ったんですよ。

N：それが実は今反省してるところで、住んでみて分かった事なんですけど自治会への入り方っていうのは、今の若い方っていうのは分からないと思うんですよ。

Uさん：それも、強制じゃないから何とも言えないんですけど。前だったら新しく入ってきたら、一回いらしたら、自治会入られませんかって、回ってきて下さったんですよ前は。

N：はい。

Uさん：でも今入る人が少ないもんだから、そうゆう余裕もなくって、だから私たちが思うのは強制じゃないんですけども、この団地の手続き時に、こういう自治会もありますから、それから表札も偽名でもサクラコちゃんでもいいから、あれね、なんにもわからないようになって。こんなのもって、どんな人が住んでるかって、だから私は気づきました？5階の空いてる所に白い入れたの。

N：ああ、はいはい。

Uさん：言いにくいんですけど、言ったでしょ？表札だけは出してほしいわって。で空き家になってる所は白い紙をいれてみたけども。長く住んでいる所はちょっと郵便局の人が貼っていくんですよ。名字をかいて、びよんとこの位の紙を。それで済ましてるでしょ。でもそれ見た自体だってどんな人が住んでるのかって思いますよ。壁は破れて落ちてるし。階段はこんなだし、外は草ボーボーだし、そんな誰も入ってきませんよ。

Y：そうですね。

Uさん：だからやっぱり最低限は、国の財産として、これを貸してくれんだって。ほんと最低限綺麗な装いをしていただきたいですね。

Y：それは、やらなきゃいけない事の1つですね。

Uさん：ほんとにこれで家賃取るのってくらい、外が。あんな壁はぼろぼろ、ペンキはぼろぼろ、手すりもぼろぼろ落ちたって、何一つ、だから期限が来ないと塗れないとか何年とかじゃなくって、やっぱこう現場をこう見てきたら、ここは応急処置しなきゃってだってね、あんな階段のとこ取れてあんな嫌ですよ。だからそれで、このぐらい取りたくなるでしょ？あれでもね、張り替えでしょ？

N：あれもね、例えば、じゃあ住民が、僕とかじゃあ自由に塗っていいですかって言うとそれはダメって、それがすごくおかしいですよ。その、ぼくらがリフォームというか、DIYした所も、ぼくらドアを塗りたいって言ったんですよ。そしたら、ドアの外側はだめだって言われて、それが自由って言われただけでやりたい人はできるのに、できないんですよ。

Uさん：だからそれをしょうがないって言ってもね、ドアとかはしょうがないとしてもね、階段の手すりはぼろぼろよ。それで、壁もそうでしょ。こんな落ちてるでしょ。だからもう定期的に塗り替える。ここはほんとに家賃を取って貸すだけの、外見上あるかどうか。ね。

Y：そうですね。

Uさん：だから、自転車置き場の管理の仕方でもそうだし。せめて外から見た時は、ああ、国の財産でみんなそれなりの人達がきちっと生活してるんだなってその人間性を取り戻したい。

Y：おっしゃる通りだと思います。

Uさん：いやーだから、どうでもいいってのは建物1つ見てもそうってますよね。

Y：で、ある期間、規則で決まった期間が来たら塗り替えるっていうのは全然見てないってことですから。

Uさん：そうそうそう。

Y：ここにそういう事務所がある訳ですよ、この中にね。それは、URの人がやってるんやなくてね。あの一、委託してるんだけどね。委託してるんだったらその人がやらないといけない。見て回ってね、ここ直さないかんという発想が彼らにはない。でも、それをしてないのを、してないんじゃないかって言うのは住んでる人なんですよ、ほんととは。

Uさん：それでも、私たちがそれ言ったって、直ります？

Y：いや直ると思います。どんどこ言えば。

Uさん：それはねえ、やっぱりしんどいと思います。そうすると、あの一、何年やったらこうなりますっていうのが決まったら、だから私なんかは草があれだから、じゃ自分たちが抜きましょって、花を植えましょとか言ってたけども、抜きましょって言ってたって、いや一回しか刈りに来なかったのが今回は二回刈りに来たからいいだろうって言う返答だったですよ。でも違うんですよ。違うんですよ。じゃあ芝生で、最初は芝生で植えたものなんだから、ね？芝生で管理してよってこう言いたいんですけど、そしたらこんな共益費では、あのあれですけど、でも何十年みたってこの共益費のずーっとこう見てたってそんな変動ありませんけどみんなきれいになりましたけど。

Y：んーいや、やっぱりどこにお金を使うかの問題で、そしたら草を全部抜いてあげたら、あの一、抜いたからっていつ住んでる人たちが

Uさん：ふふふ、それはできない（笑）

Y：いやいやいやいや、そういう性質のもんじゃないですか。でも自分のところだったら。

Uさん：いや、逆です。

Y：日曜日でやりなさいって言うね、あの一、話だったらじゃあ・・・

Uさん：いやー、ごめんなさいねー。ほんと草どこかせてもらいます。ごめんなさいねー。

Y：いやいやもちろんその一単純にはいかないですけどね、そういうことじゃない・・・

Uさん：みなさんのものなのにならうろうろして草とったりしたら、そんな厄介なことと言われると思いますから、すいません目ざわりじゃありませんかったら花植えたり草植えたりして・・・

Y：いいんですよ。遠慮しなくてね、うん。まあそういう

ことはあちこちで起こりうると思うので。

U さん：でも、私物・・・私物化するようなその一、って言うのは難しい・・・

Y：まあ、多少私物化してもいいんですよ。さっきお話出てたずっと手入れしていращやるね、お年寄りの方がいращやる。それも私物化してるんですけどね、みんなのために私物化している。

U さん：すごいきれいにしてある。

Y：それは良いことですよ。

U さん：10 年間。

Y：ねえ、それは立派なものですよ。

N：きれいにされて文句言う方ってやっぱりおられないと思います。

U さん：いやー。

N：おられますか？

U さん：うちの、うちの目の前は、あの、通らないで下さいとかござごそしないで下さいとかあると思いますよ。それは。一階の人は特にね。そんな気持ちのいい人ばかりではなくて、そんなもうここすいません（笑）

Y：まあそういういろんな人いますけどね。でもだいたい綺麗になってみんな気持ちがいいと思いますよ。

U さん：だから、あの一、心地よく同じ住むなら私はここで一生のうちで何年か心地よく住みましたっていう、そういう住み方のできる人たちの団地にしたいし・・・ね？

Y：そうですね。そうなればいいですけども。

U さん：前向きに・・・それが無くなってきました。日本人も変わりました。

Y：やっぱりね、努力がいるんですよ。それで、あの一、気に入らない人を排除していくというのではない方法がね、うまく定着すればね、いいですよ。

U さん：そうですね。ただその、気に入らない人を排除していくとかって言うよりも、その、わからない・・・わからないって言うところが一番しんどいですね。

Y：わからないか、わかろうとしないか、両方ですけどね。

U さん：わかろうとしても踏みこめないところがありますでしょ。だって名札も出さなかったら、一回入ってきたとき聞いてもどなただか忘れちゃいますもん。だから、芸名でもいいから、桜子ちゃんでもいいから出してって言うのよ私。

Y：うん、そうですね。

U さん：いいでしょそれでも。

Y：いや、そんな芸名でもいいわけですよ。

U さん：いいでしょ、それでも。芸名でも良いですよー？と思いませんか？

A：そうですね。その通りです。

U さん：そしたらなんとなくね、安心するんですよ。うん。

Y：まあ、そういうことってたくさんありますよね。おっしゃったようなことね。それを一つずつこう埋め合わせしていくっていうことでね。ほんとと大切なんだと思います。ものすごい手間と根気がいることになってくる。

U さん：住みやすいとかいったのに・・・（笑）でも男山に関しては配管だけは何とかしてほしい。

Y：え？

U さん：配管だけは。配管うるさいんですよ。うん。配管だけはもうどうしようもないですね、あれはね。うるさいでしょ？

N：ご迷惑おかけしています。

U さん：いやいや、いやいやうるさいでしょ？

N：あの一音鳴りますね。

U さん：うるさいでしょ？それから床のところだって絨毯とかしかなかったら、もうガラガラガラガラって即だから、掃除機引っ張っても何事起きたんだろうって。

N：あの一、上だけじゃないですよ。僕はあそこに住んでると、隣とか下とかいろんなところからやっぱり・・・

U さん：音がいくでしょ？で、うちなんか特にいつもなんかおっきい音してませんか？音楽の音とか。

N：いや大丈夫ですよ。

U さん：大丈夫です？

N：僕も結構外にいることが多いんですけど、まあ掃除機とかはやっぱり聞こえ・・・あの一。

U さん：聞こえるでしょ？

N：聞こえますねー。

U さん：そうでしょ。

N：上じゃなくて下から聞こえてくる・・・。

U さん：聞こえるでしょ。で、私も絨毯も二枚ひいてあるんですよ。板の間に。それで掃除機だってほんとに毎日かけないで、かけてる時間だって日曜とかぐらいしかかけないですけどすごいですよね。何事起きたんだっていうくらいだから。それほど天井も・・・

Y：それは当時の建物が粗末だったということにつきますね。

U さん：そうですね。配管と。まあそれは絨毯敷いたらいいんですけど配管だけはね。それからあとあの自動の洗濯機になったからドーンてなるみたいですね。あれがね。うちはあんまりしません、うちのところはそんなにしないでしょ。します？

N：いや、僕はしないでですけど僕の声もされてるかなーと・・・

U さん：いやそんなわかんないです。そしたら、あの一、一棟の方なんかはドーンとそれで目が覚めるんですけど。あれがおっきく響くところで。あの一、自動でね、水が止まったりする。だから・・・

Y：うーん。

U さん：あの水の音もすごいですね。いや、何とかしたい。何とかしてほしいね。

N：そうですね。

Y：洗濯機を置く場所が無いという風なね、そういう公団の建物はかつてはありましたからね。

U さん：みんな、みんな水漏れしました。

N：うん。古くなったらやっぱりね、どうしても宿命的にそうなる・・・

U さん：それでこの作ってもらいましたからね。すみません、余計なこと言って。

N：いえいえいえ。

Y：いえいえいえ、余計なことじゃない。大事なことからね。

Y：まあ、あの一、そういう建物そのものの問題も片一歩にあるけれど、住み方でもって変えていければいい

う想いもありますよね。それで仲良しならば・・・

Uさん：だから、これからもう、まあ一人とか残っている人たちも、うちの人もほら、あの、お二人・・・ね？おばあちゃんもご主人と来てここで終わるってB棟から来られた。だから、みんなそうになっていく住宅になるんでしょうかね？

Y：まあ、やっぱりその傾向はまだ続くんじゃないでしょうかね？一人だったらどうなんですか？あの家は広すぎますか？

N：広いですね。

Uさん：そうすると、Dあたりは丁度いいんだと思います。

N：Dは狭い・・・

Uさん：Dはもうちょっと狭いと思いますけどね。

N：さっきの騒音の音の話もですけど、そのおっしゃってる誰が住んでるか分からないという状態よりも、自治体か何か分からないですけど顔見知り知ってる方でしたら。

Uさん：そうそうそうそう。

N：ある程度だいたい我慢出来ますもんね。

Uさん：そうなの。そうなのよ。そうなの。それでチビちゃんにも「いやいやいやあの子寒い所で黙ってて。」元気もらうところもあるわけね。でも分からなくてそうなのと・・・

N：なんだそうねーって。

Uさん：だからやっぱりある程度知ってる顔してコミュニケーションすることによって、「あ、ちびちゃん騒いでるな」「お孫さん来てるな」とかって、こう「ごめんね」とかって、それでこう会話になるんですけどね。

N：知らない人だとね、どうしても・・・。

Uさん：でもちゃんと彼（N）は全部挨拶してくださったんです。

Y：その当然なことが珍しいかのように語られるというのがね・・・。

Uさん：そうです、そうなっちゃったんです。だから・・・

N：そうですね。

Uさん：そうです。

Y：まあ、あの一やっぱり、子供たちがつなぎになってた。その子供たちがいなくなったということが大きいですよ。

Uさん：そうですね。それはありますね。ただあの当時はみんな、それこそみんなの間に結構ピアノなんかもありまして今では考えられないですよ。

Y：あー、なるほどね。

Uさん：だから時間を決めて夕方に子供がブワーッと集まってぼんぼんピアノ弾かせてましたもの。今では考えられないです

Y：今弾くとどうなりますか？

Uさん：・・・それは。

Y：それ弾く人がいないということ？それとも弾いたら近くからクレームがいつぱい？

Uさん：いやいやいやいや、弾く人もいないですけども・・・もう駄目だから今それであの一、防音装置の付いたヘッドフォン、それでみなさんやってらっしゃると思う。だから良い時代だったんです。それでこう流れてくると、いよいよあの子だいぶ上手になったねって言うの。

それも雑音の人もいるのに。ねえ。騒音の人もいるのに。

Y：それもまあいろいろですけどね。

Uさん：だから、そんなことも気になって子育てさせて・・・まあ時代でしたけど。良い時代でした。

Y：まあそうですね。

Uさん：はい。じゃあこれから自分たちが歳をとってきた時に男山で、ここで良い時代でしたって終われたら良いですけどね。

Y：いやいや、まだこれから、これから良い時代を創らないといけないんですけどね。

一同：（笑い）

Uさん：よろしくお願いします。

N：一緒に創りましょう。

Uさん：よろしくお願いします。

Y：まあその、しかし、その良い時代だったところにやっぱり我慢していらっしゃることもだいぶあったじゃないですか。例えば今のピアノの問題一つにしてもね、ある部分我慢と隣合わせてるところがある。

Uさん：あ、そうですね。

Y：ね。で、自分にも子供がいるし相手にも子供がいると。じゃあお互い様だからお互い一緒に我慢しようかと。そのような共通項がありましたよね。それが今はずたずたに切れてるのかな。

Uさん：それもありますし、同じぐらいの子育てしている人たちだったから、お互いさまの部分もありましたね。それは良い面でしたよね。

Y：みんなが繋がってたんですよ。

Uさん：それで今みたいに、一人でゆっくり、静かにいらっしゃる所にどたどたどた一っていつてそれこそピアノなんてしたらとんでもない話になるから、そういう意味でも良い時代でしたね。同じ年代の人たちでできたっていうのは。

Y：そこで、かつて僕がピアノを我慢した時代もあったよと。で、下手なピアノを聴くのもそれも一興だというようね、ことを思い出してもね、まあちょっと許そうかという気持ちにはもはやなれないわけね？

Uさん：今はね、今は孫たちが、また別の自分の方で、普通の一軒家で住んでいますけども、私と同じような年代の人で家庭を持たない方からはよく聞きます。もう、騒音以外のなにものじゃあないって。で私たちは子育てしてる時だったからお互い様でやってて、朝から弾くとかじゃなくて、夕方のだいたいこの七時くらいまでと違って分かってやってて、みんなで弾かせてもらったと思います。時間はそれなりにしてて、お互いに気をつけてやってたつもりですけども、全く違う人からしたら騒音以外のなにものじゃなかったと、今だから彼女は言うてくれますけどね。ええ。でもその人もお勤めしてるから、日曜はいいいわけで・・・。

Y：実はその時はすごい我慢していらっしゃって。

Uさん：あ、そうそうそう。そういう人もいたかもしれないですすね。うん。だから、同世代で子育てできたっていうのも、そういう意味でも自分たちがわがママを通したっていうところも多々ありますね。

Y：いえいえ、まあそうですね。

Uさん：ありがたかったですよ。今じゃとてもじゃないけ

どできないですからね。

Y：少しそれが不自由な世の中になってますね。お互いにちょっと我慢しあうとか、少し補完しあうとかね、というようなことをね、だんだんできない時代になってしまっている。

U さん：だから、ワンちゃんなんかでも飼ってる人でも、だいぶ前からその方たちで立ち上げていうの？迷惑をかけないからそれだけあるんだからもしここの一棟は一階はワンちゃんでも飼っていいとかってそういう風なことを公団にあれしたら、そういうことができますって。でも堂々と飼っちゃだめですって貼ってあるけど無意味ですよ。だから貼る以上はそれなりにきちっと対応してほしいっていうのもあるけど。でも私たちだってそれ周りもいなかったら、ワンちゃんだってネコちゃんだって騒ぐと手間かけるしその中で子育てしないといけないってことになるから、セルフ的にもここここは一階にする。お年寄りも室内犬くらいでいいとかそういうゆるやかな時代と合わせて良い方向に持って行けたらねってそんな話もしてまして。

Y：まさにそれはね、その一、さっきおっしゃってた「国は一体何考えてんの？」っていう。

U さん：そうなんです。

Y：その方向なんですけどね、国がこんなようなものにしていうことをもう少し明確にするというかあるいはURがそれを明確にする、まあURは内に追随ですけどね。すればそういう、しようと思ったらできることばかりなんです。

U さん：でも、今の人口問題でもそうですね。そんなの分かってますよね。あの10人くらいの兄弟のひと、都会で2、3人のひとと全然違うわけですから・・・ん？9番？

A：9番目？

N：9番。兄弟。

U さん：全然違いますよね。

Y：それはそうですね。

U さん：都会で二人でやってきた者と、教育から何から・・・それで今学校へ行くのもお金が無いからこうだとかこうだとかって。そんなの昔、親は土方やったって子供はみんな学費渡しましたよね。だからその、時代背景とかもみんな分からなくて。快適な生活してこうだこうだって。違うんですよ。だから私、子の独立、自立とかって言ってますでしょ。自立せなあかんのですよ。あとは自分の生き様はどう生きようとも。その精神が無くなったような気がして寂しい。

Y：んー、そうそうそう。こう生きようというのじゃなくて、世の中ただみんな同じことをしなきゃいけないとかね。

U さん：そうそうそう。

Y：そういうためにすごく・・・したりね。

U さん：だから私たちがこうやってすごく良い太陽の光を浴びて、これだけの空間があって普通のマンションじゃあこんな最高は無いですものね。すごく都市機構はすごくそれが良いので。あとはこういう住宅があんの住む人がいなくなってきたとか老人とかになった時に国はこの財産をどういう形で国民のためにいい方向に持

って行ってくれるのかってことをもっと国から出してほしい。

Y：まあそれは大切なことです。ほんとにそれはできたら。でもね、ここがすごく快適でいいとこだということがもっと知れ渡ったらね、来ますよね。おそらく。それだけの条件でここに来るわけではではないので、そこが難しいところですけどね。その、すごく素敵な環境をですね、ほっておくようなことなんてしませんよ。必ずそれを利用するそれを利用するようになってくると僕はそう思ってます。で、ただそこに至るまでの間にちょっといろいろな超えなければ行けない問題があるかなと思いますけどね。

U さん：その超えなくちゃだめなものをちゃんと都市機構なり国が方向を出して持っていけるかっていうのは...

Y：国に問題が有り、都市機構に問題があるわけですからそこの中を直さなければいけない。

U さん：ねえ、そうですね。それで住んでる人たちが、「いいとこですよ。いいとこですよ。」といっても、自分たちのできることはある程度やりましょうということですけどね。

Y：でも、結局はね、住まっている人たちは頑としてね、譲らないとこころがあればね、そちらが変わらなきゃいけないようになってくるはずなんです。なかなかそうならない。住んでいる人が主人公ですから。賃貸と言えども。賃貸だから主人公でないなんて大間違いであって。まあ、そういう方向で行けばね、まあいいのになと思います。

ちょっと話変えますけどね、お孫さんいらっしゃいますか？

U さん：ああ、います。

Y：何人いらっしゃいますか？

U さん：3人です。

Y：遊びに来られますか？

U さん：きます。この狭いところでも来ます。

Y：どんな感じですか？来られた時に？ご主人は今ご健在ですか？

U さん：います。だけでも来ます。この狭くても来ます。ありがたいです。

Y：嬉しいですね。

U さん：ありがたいです。それで夏休み...

Y：どこに住まっているのですか？

U さん：名古屋と今宝塚です。

Y：ああ、ちょっと離れているけどまあそれほどでもない。

U さん：だけでも来ます。だからこれが来なくなったら来ない...

Y：だから、やっぱり快適なんじゃないですか。あるいはここで育ったということに対する記憶が。まあ、お孫さんはここで育ってないわけですね。

U さん：ああ、そうなんです。でもその手をつないで歩いているのを見たらやっぱりいいというのは分かるんですよ。だからこういうものを孫達に残したいなと思うけども、本当に物騒な世の中になってきたらね。理想は東公園の周りグルッとこう上から見て。

A：ふふふ。

Y：いや、この中に東公園をつくれればいい。どっか建物間

引いてね。東公園のようなものを中に作ればいい。

U さん：ああいいですね。

Y：そしたら向こうに周りに家建てるよりも間引いて中に公園作るほうが楽ですね。

U さん：いいですね～いいですね。

Y：ほいで、一階のうちから外へバツと出られるようにするとか。

U さん：そいでこういうカフェの外あって。ほいでみんなでおしゃべりしてそれで孫たちが遊んでてとか。

Y：その中にお店を作っちはいかんということが決まっているでしょ。そんなことをやめればいいじゃない。

U さん：なるほどね。

Y：うん。方法はまあ、そんな方法あんな方法色々あるんですね。できるようにね。

U さん：いつも思うんです。東公園の周りにみんなこの男山団地があればいいのに。ふふふふ。いつも思います。

H：あのちょっとお話していいですか。この団地に来るまでの居住歴、どういったどんなところに暮らされていたのか。

U さん：あのですね。私はね庄内の出なんで。山形県の酒田の庄内平野の出でして、あきしょうです。そいでみんな、

H：そしたら山形県の酒田といたらもう元々のお家なんで。

U さん：そりゃあもう大きいです。

H：何してらしたんですか？

U さん：百姓だから。

H：そうですね。

U さん：だからみんなで全部田んぼの仕事全部しますよ。だから小学校の一年生ぐらいになって学校はもう休みとかあるんで。農繁期は。でみんな裸足で全部、稲を全部一日中裸足で全部こうやって。だから。

H：六人も兄弟おられたらその農作業をしている時のお仕事と上のほうのお兄ちゃんお姉ちゃんも。

U さん：だからも大学までずっといるんです。大学から幼稚園まで。

H：赤ちゃんが。お兄ちゃんが赤ちゃんみてるとか。

U さん：だからわりとその、あの、今の 70 いくつまあ 80 からもそうですけども、結構 6 人 7 人 8 人 9 人 10 人ぐらいの兄弟がいっぱいいましたから。

Y：まあ普通でしたね。それが普通でしたね。

U さん：普通でしたよね。そいで今こうやって来てそういう農村、日本が農村社会じゃなくなって都市部にこうなった時に。こういうふうにしてまあ都会に出てきたわけですね。だから、あの、水野忠邦の。

Y：東京でお仕事なさっていたんですね。

U さん：そうです。そうです。

Y：その人達が世の中を変えたんです。

U さん：そう。だから、それでその天保の改革みたいに水野忠邦みたいに江戸に出てきたらダメだって今の北京みたいに言われたら、私昨日も言っていたの主人と。私達田舎に帰らなあかんねって。そうです。そうです。うん就職して。みんな。あの東京はみんなその青森とかみんな東北とか北海道の人とか東京とか。

Y：ご主人はどちらの。

U さん：一緒なんです。

Y：一緒ですか。

U さん：だから、東京の就職するときってのはそれこそ中学校で出る人がいれば高校で出る人もほんとに大学行くって言ったらほんとにお金のある人しか行けなかったわけですから。

H：ちっちゃい子供のいるところはおうちの農作業とか。

U さん：全部、全部、全部、全部。

H：高校生とか大きくなったら今度就職で。

U さん：そう、そう、そう、そう、そう。だからその日本の人口形態とかそういうのを見て行かないと、その時にこういう住宅を都市部に來る人達のために建てた住宅ですよ。それがね。

Y：その時にそれはものすごい役立ったわけです。

U さん：そうです。そうです。それで外的なものをダーと建てて一つの街として残るようなものを建てたんならええけども、外的なものを建っちゃったんですね。

Y：かなり行き当たりばったりです。

U さん：そうです。だからこの男山もこうするんだって言って、いろんなね、いろんなね、バリエーションで建ててくれたらこの街はもっと素敵な街に育っていったんですよ。

Y：残念ながらそこまで見えていなかった。そういう人たちが入れる家をいくつ作るかってことしか問題にできなかった。

U さん：それと結局持ち家指向と、田中内閣の時持ち家指向に行きましたよね。

Y：そうです。

U さん：それよりヨーロッパのあたりとちょっと違いますね。

Y：おっしゃるとおり。

U さん：あそこで、あそこでもう少し別の方向にしたらちょっと違っていたですよ。

Y：おっしゃるとおりなんです。

H：東京に出られたときはどんなところにお住まいで。

U さん：それは寮があるんです。ほとんど寮です。

Y：会社の寮に？そのころはまだ結婚なさってなかった？

U さん：そうですそう。だからほとんど、日本のその、都会に出てきて、今ちょうどあの、中国の人たちが北京に出てくるっていうけど出てこれないっていうのと一緒です。

Y：あれはそういう政策をしているから。

U さん：政策してて、そいで中国は北京に行きたいだけでも北京大学にも入れなくて、昨日の新聞だと。そうすると親が北京で生まれてたりしてたりしてたらいいけども、親が地方で北京で出てきたけども、子供もは今度そっちの方に高校行きなさいって書いてましたね。

Y：中国はそういう格差を維持しながらね、国を作っているから、ちょっと日本と多少状況が違うけど

U さん：良かったね日本人で。

Y：だけど東京は、だから上野駅はものすごい意味がありましたよね。そのころね。

U さん：「新川二郎一めいどはおいらのここを一」泣けてきます。

Y：勝手に涙が出てくる。

U さん：ほいで銀座線なんか天井が低くて今にも落ちそうな感じでね。あそこの人と言ったら。だから日本人の

原点は東北とか東京とかあそこが原点ですよ。まずそれを抑えておいて住宅問題を考えて、みんな来たんだから役割を果たしました。それで減反政策なんて3割も4割も農地がいったから入りなさいって言ったって、誰が入りますよね TPP の問題にもなってるから。住居だけの問題じゃなくて、日本人がいかにも暮らすかっていうことをトータル的に考えてこの住宅を考えて行かないとダメなんですよね。

Y：政治家になって欲しかった。

皆：ははは。

U さん：だからなんなさいって。なんなさいって。

Y：いや、本当にそうです。

U さん：そうですよ。

Y：単に住宅の問題は都市の問題です。じゃあ都市と郡部とはどうバランスしていったらいいのということとの関係ですよ。いまそれを語っていますとね、ちょっと歯がたたないことになりますから。もう少し個人史を語っていただくということでその東京に出られてどんな具合に変遷を辿られたかということ聞かせて下さい。

U さん：いや、だからそれはもう寮とかがありましたから。その当時は。福利厚生でほとんど寮とか会社を持っていたから。でも今みたいに一部屋与えられるとかじゃなくて、あの当時というのはほら。

Y：そうでしたね。

U さん：5 人でも 6 人でも持って、そっからですよ。

H：何歳の時にそういう。

U さん：もうこんぐらい。中学生くらいで出るのは金の卵で中学。大方が高校出の人いるけども、我々の年代でも3分の1ぐらいしか高校行かないっていうなにもありますよ。

Y：そうそうそう。

H：13、4 歳ぐらいですか？

U さん：15 ですよ。中学だと 15。

H：みんなで住むような部屋...

U さん：そんなのも 50 年の話ですよ。半世紀前の話ですよ。昔の話じゃないんですよ。この日本は。おいくつなんですか。

H：僕いま 53 です。

U さん：53。

H：までも自分の親の話とか聞いているからまあ。

U さん：え、どちらなんですか。生まれは。

H：生まれ？生まれたのは大阪の南なんです。

U さん：ほら。大阪の人がわからないです。

H：両親が高知の山のほう。

U さん：あ、そしたらお母さんとお父さんの話を聞いたらわかりますよね。

H：そうですよね。大体想像は。

U さん：あ、そうですよね。

H：はい。当時は。

U さん：みんなそうだったんです。

H：男山団地に来るまではどんなところにお住まいで？

U さん：それはもう結婚して普通にちゃんとアパート借りて。私たちの家庭としてはそうですもんね。それでその時土地も買ってうちもちゃんとするつもりだけど転勤でこっち来ましたので、もう 40 年土地も置きっぱ

なしなんですけども、またそれもおかしなもんでね。

Y：そうですか。そうか、転勤でこっち来られた。

U さん：だから今はほら、金利が安いもんだから、若い人が家賃を払うよりも家買いますよね。我々の時には金利は9%ぐらい公定歩合が5.5で金利が9%ぐらいでしたから。今2%ぐらいだから、家賃払うつもりでって皆お家買われますでしょ。だからこういうお家が空くんですよ。

Y：それも税金上がりますよ、今の状態だったら。そうすると困るけど。まあそれはちょっと話大きいから、ちょっと。

U さん：みんなそうですよね。だから固定金利で借りなさいよなんていって、えーって子どもたちが言っていました。固定金利でやってください。絶対上がるから。

Y：その時に、お子さんは小学校上がる時にこっちに来られたということね。

U さん：完璧でしたね。だからあとはこれを住宅。あの老人の住宅として快適に暮らすようにするのか、若者を取り入れて活気良くするのかどっちかしかりませんでしょ。

Y：両方です。両方せないかんです。そうせんと老人村になります。まだ元気老人の間はそれをね元気に語っているけど、そのうち元気老人は元気でなくなりますから。やっぱり新陳代謝していかないけません。

H：さっき、あのある程度もう少し年をとったら出て行かなければいけないかもしれないと。

U さん：それは、だってここでもし一人になって体がおかしくなったら結局有り金はたいて自分のあった何千万かのところに行けたらいいですけども、どっちかですよ。ねってみなさんおっしゃってますよ。

H：ちょっとここで更に5年10年なんとか歳とっても暮らそうと思うと、なんか、空想で言うとなに、なに、どんなものが、なにがあれば・・・。

U さん：いや、それが、下の奥さんでも、もう86でしょ。あの方が、そうすると、まあ、ケアハウスとかにこう、行ってお風呂とかも入らしてもらってって、んで、まあ、あ、お掃除も来ていただいてやれる。それは、自分でちゃんとお手洗いも行けるし、自分でちゃんと身の周りのことができて、お食事自分で作れて、で、まあ、お弁当も来るからそれでもいいんですよ。ただそこに居て、誰が、要するに何するのでも、お手洗いにいくとかも行けなくなった時はアウトですね。それが24時間体制でこう、回ってきてくれて、寝ててもここに居られるっていう住宅に、なるんなら居られますけども・・・、スウェーデンみたいにそんなならいいでしょう。だからヤマノエさんなんかそれを目指してって一生懸命やりましたけど。

Y：どっか行かなきゃいけないという、その、どっかと同じものがここにあればいいんですか、一戸の家がそういう状態で管理されとったらそういうことは解決するんですか。

U さん：ああー。

Y：どいってもケアされるんですか。

H：やらないといけないのはかなりもうちょっと深刻ですけど

U さん：えっえ。

H：やっぱ、3階まで階段はもう・・・

U さん：あっ、登れない、登れない。
H：それだったらまだこれからですよ。
U さん：うん、そうそう、そうなの。えっ。うん。
Y：その仕掛けがまだ出来上がってない。
U さん：それか、エレベーターを付けていただくとか。ね。
Y：そうです。
H：ですよ。それだけであと。
U さん：それだけ。
H：数年ぐらいはね。
U さん：それで、あそこ、なんか、気心知れてる人達がいるから、元気なうちはおかずでもひとつもったら、こうやって、またこう和気藹々となるっていう、ただ、どういう住宅にしてくださるかはもう、ね、都市機構さんのこう、あれなので、んー。
Y：いや、だから、こうしてほしいということがね、もっともっていつぱい聞きたい。都市機構はそれを下敷きにしながらなにか。
U さん：あー・・・。だからそういうのがこう、自治、あつ、自治会のあたりでわあーとこう、各々のお話し合いができて、巻き込んで、住人を巻き込んでいったらいいんですけどね。
Y：と思います。
U さん：ねえ。皆さんだからこっからは、あの一、動かないで皆知っているとこでこで、終われるものならって思ってる人も結構いると思いますよ。
Y：自治会の役をしていらっしゃる方、かなりのお歳の方が多いんでしょ。
U さん：あー。
Y：そしたら自分の問題でもあるわけでしょ。
U さん：そうです、そうです。皆さんそうです。
H：あの一、若い人が自治会、きりまわしているとは言えない。
U さん：んー。
Y：思えないから。
U さん：んー。
Y：だから自分の問題なんですよ。
U さん：そつ、そうです。
Y：んー、あの一、こうなりたいというね、して欲しいというよりもなりたいというね。
U さん：でも、それは、私達の意見なんか言ったって、そんな草刈るのひとつだって・・・、ならないし、壁のこんな落ちたのだってね、なんにもならない。そんなことなんか言ったって無理です。
Y：その無理というのが今までの、もう、あの、習わしとなつて。
U さん：あつはつはつは、無理ですよ。そしたらあの人達何うるさく言って、あの人うるさいわねってなるから。
N：ふふふふふ。
U さん：もう。そうですよね。
Y：あの、一緒に住まわれてる方が、あの人うるさいわねってこうなるんですか。
U さん：いやいやいや、あの一、一緒に住んでいる人よりも、なんか。
Y：UR の人。
U さん：いやいや、それはわかんないですけど、自分自身が言われるんじゃないか、わからん。

Y：それは勝手に想像してそうおっしゃってるだけですよ。ね。
U さん：いやー、だけど、いやー、そんなもんですよ、皆さん。
Y：そりゃわかりますよ。
U さん：うつふふふふふ。
Y：世間ってそんなもんやと思うけど。
U さん：うんうん。
Y：でも一、一緒なんだ。
U さん：けども、勇気がいりますよ。
N：勇気いります。
U さん：そのうちプサッと刺されるねっていうはなし。うつふつふつふつふつ。
H：はははははは。エレベーターの話。
U さん：はい。
H：これ空想なんだけど、例えばエレベーターがあると便利なんだけど、えー、30 代、40 代、50 代に暮らしてるときには、あの、まあ、階段があるせいでエレベーターないですけど、ちょっと階段狭くなりますけど、若い時は階段があることでね、さっきのその階段の単位のお付き合いっていうのは。
U さん：あつそうそうそう、そうそうそうそう。それあります。
H：階段の良さっていうのが。
U さん：はい、あります。ありますそれは、はい。
H：エレベーター乗るとどうかって。
U さん：そうそうそう、ええ、ええ。そうそうそう。
H：あかぬけた良さっていうのが。
U さん：そうそうそうそう、そうそう。そしたらね、階段、階段同士がなんとなくね、あの、話し合う機会も階段掃除とかある訳だし、機会もあるんですよ。
H：それなんとなく、まとまりある。
U さん：そうそうそうそう、そう、階段同士でまちな歩くとかそれもあるんだけどね。
H：じゃあ、やっぱり一挙に全部やる、階段がなくなって、エレベーターがあるってなったら
U さん：ええ。
H：3 階の人が。
U さん：ええ。
H：1 階の若者とがかわってあげるとか。
U さん：ええ。
H：エレベーター付けちゃうと階段が全部なくなっちゃいますから。
U さん：あーあーあーあーあ。でもそれもこう、歳とつてからこう、変わるっていうのも、んー、なんでしょうかねー、それも億劫だと思いますよ。うんうんうん。
Y：それはもう変わるお世話も全部する、しなきゃいけない。じーっとしといてもらったら、物はみんな運んであげますとかいうね。
U さん：それは自費じゃなくてですか。
Y：いや、まあ、それはちょっと、お金のことはちょっと。
U さん：ええ、ええ。
Y：誰がやるかわからんから、ちょっと。
U さん：ええ、ええ。
Y：まあ、置いといて、あの一、ゆうところまで。
U さん：ええ。

Y: ちゃんと。
 U さん: んー。
 Y: あの一、それがフォローされてない。あの一こっちの人こっち来て下さいっていうね、そう簡単ではないですけど。それは、勿論・・・。
 U さん: いや、難しいですね。
 Y: 普通そうですけどね。今。
 H: 全部難しい。
 N: そう。
 U さん: そうですよー。
 H: 他のことに使いますから。
 U さん: ええー。
 Y: それ物凄いお金いる訳です。さっきおっしゃってた、国が、それをどうするというようなこと言うたら、それみんな税金でやる訳ですから、うん。
 U さん: だから、あの一、この頃言うんですけど、住んでる人達も、あの一、なんかこう・・・、税金入っていることを忘れないでいようねっていうんですけど、ね。
 H: そうそうそうそうそう。そうです。
 U さん: ねっ、ねっ。
 Y: 主人公ですね。
 U さん: ねっ、ねっ。税金も払っているけども、税金もちゃんと使わせてもらってって、してるって、そういう気持ちがあったら、やっぱり、ちょっとでも綺麗にしようかっていう感じが、その、文句だけを言うんじゃないって、動こうとしますやんね。
 Y: おっしゃる通りです。
 U さん: だから、その、税金・・・も、入ってるんだということも忘れないで。
 Y: そうです。
 U さん: 協力的に、心地よく住む住宅にする、と。
 Y: そうです。
 U さん: おっほほほほほ。
 Y: 歳いきゃ税金払う額が少なくなりますから。払わなくなりますから。まあかつて払っているのもあるけども、それは、そいじゃあちょっと労力で、あの一、奉仕しよとかかねっていうような形、になっていかないと。
 U さん: そうですよ。
 Y: 解決しないですよ。
 U さん: 解決しないです。そいでなんか・・・、なんか、日本人が皆なんか、おかしくなりました。
 Y: いや、だけど一、あの、日本人おかしくなったって言うてこっちが客観的に言ってる訳にはいきませんから、自分日本人が、一人が。
 U さん: なんか、自分も日本人だけど、・・・そう、なんか、もっと違ってましたよ、・・・もっと・・・、もっと違ってましたよ、・・・。もっと違って・・・。
 Y: まあ、これだけ長い間生きてきて、自分が今これになったんではちょっと情けないという
 U さん: そう。
 Y: ところに。
 U さん: そうです。
 Y: それは、沢山、あの一、そういう人達いらっしやると、僕もそう思います。
 H: 日本人はだから、団地は、同じ様な若い夫婦が子育て、同じ人達が。

U さん: うん、あの、ほら。
 H: 逆にノイズっていうかね、こう、ストレスを。
 U さん: そうそうそうそうそう。それもありますね。ねっ、年収がこのぐらいとかって決まっちゃったやん、結構、このぐらいとかって。
 H: だからそれはもう、仕組みになっていかな、色んな人が住み始めますので、ちょっと調整していかなあかん・・・。
 Y: まあ、あの、ほんとにばらばらと、崩れていかな、あの、交通渋滞がかつて起こってたんで、交通渋滞ずーっといつてたらいつの間にかばらけてきてね、車が走るように。
 U さん: 走るようになった。
 Y: その時に今なってるって僕は思います。
 U さん: なんか・・・、なんか、でも・・・、いろんなこう、なんていうの、ちゃんと住んでるところ、住んでることがわかるような人が住んでほしい。
 Y: それはそう。
 U さん: それだけは、ね。あの、どんな層の人達でも、年代の人達でもいいけども、ちゃんと、せめて、あの一、なに、芸名でも出せるような、ね。
 H: 表札ですよ。
 U さん: 表札。芸名でもいいから出せっ、芸名でもいいですよ、なんでも。ねえ、いいですよ。ねえ。
 Y: あの一、A さんでも B さんでもいい。
 U さん: そう。B さんでもいいの。
 Y: これ A やっていうことで決めたらそれでええはずですよ。
 U さん: そっからスタートしないと、あの一、気持ち悪い。うっふふふふふ。
 Y: 名前と顔がね、ひとつのものにならない。
 U さん: そう。ならないと。コミュニティなんかできません。
 Y: それはおっしゃる通りやと思いますよ。
 U さん: そこかしら。んっふっふ。
 Y: 解決しなきゃいけない問題沢山ありますやん。これからのすごいまだまだあと人生忙しかわかりませんよ。
 N: んっふっふふふ。
 U さん: いやー、ただ上から見たら草刈って、一生懸命とってるんですよ。
 N: されてるかもわからないけど、上からはなかなかねー。ねえ、ええー。
 U さん: ああ、そうですか。で、ほら、1 階の奥さんも外なんか見たら見えるかなって、2 階の奥さんも、ねえ、見えるかなって、私 3 階のベランダなんで、せめて、ああ、花が植わってるな、ぐらいしか今はできませんので。ええ、へへ。
 N: 1 棟、2 棟の南側のところは凄くいいですよ。光あたってね。あそこの芝生はね。
 U さん: 一等地、一等地。
 N: うん。凄くいいですね。
 U さん: そいでここ、新しく白くなったから。
 N: ええ。
 U さん: 凄く明るくなった感じでしょ。
 N: うん。
 U さん: 建物が。

Y: あっ、もうここ見えてきた。
U さん: ここ、ええ。それで、あの、チョコレート色になったからなんか凄い、なんか、凄い綺麗な建物になったんです。
Y: ああ、そうですか。ああ、男山は、男山はまたそれだけ素敵になったんですか。
U さん: そう。素敵になったんです。ね。
Y: で、そういう話をね、あの、今ここで色々聞かていただいたんですけど。
U さん: ええ。
Y: そういうことを、その、お仲間同士で。
U さん: ええ、よく言っているんです。
Y: しょっちゅうやっていらっしゃるんですか。
U さん: あの、樟葉でよく習い事やってるもんですから。
Y: うん。
U さん: じゃ、樟葉の一等地に住んでいる人達いっぱいいるんですよ、お友達に。
Y: うん。
U さん: 樟葉の並木の辺りですよ。一等地の人達。一生懸命話して。でも、でも、私は所詮持ち家でもないし、何千万って住んでる人達の、あれじゃないけど、私は借家だから。
Y: いえいえいえ。
U さん: 賃貸だから、そのギャップを感じやすい。いつも。
Y: うん。
U さん: でも、いいとこですよ。それで、お友達でも遊びに来たら、やっぱりこの日の光がいいってことになって。
Y: そら、その、その一等地にはこんだけの環境がないって。
U さん: やっぱり、あの、環境はあっても、南に面してるとことかだし。
U さん: 皆さん憧れてるんだけど、持ち家の人たちもね、そういうのはわからないですから。
Y: そうですね。
U さん: 上がって、お茶でもどうぞっていうけど。でもある方からしたら、持たざる者のなんとかってところも、無きにしもあらずでしょうからねえ。ほっほっほっ。
Y: いやあ、もっと堂々となさってたらいいと思いますよ。
U さん: いや、持っていない人がそんな借家がいいとかだいいとかだって言たってって思ってたらしい方もいるだろうけど。とにかく、日の光は最高です。
Y: 借家だからこそね、この環境が維持できてるんですよ。これ持ち家にしたらこの環境は維持できないですよ。
U さん: んー…。ありがたいです。
Y: 大事にしなきゃいけないですよ。
U さん: そうですね。
Y: でも、変えていかないといけないんですよ。
U さん: ありがたいですね。でも東京にいたらこんな住宅には住めないですからね。当たっても…。どうですかね、高島平の辺りも古くなってますよね。
Y: 東京の団地でもね、まだこういう環境はありますけどね。ええ、でもちょっと大阪と事情は違いますから。建て替わったりなんかした時に、その環境をどう維持

していくかということをおね、すごく困ってますね。
U さん: だからあの、男山もそのうち香里が建て替えたら男山も建て替えられるんじゃないかなって友達と話してたんですけども、こういう情勢になってきたら、建て替える必要もなくなってきたら、いやあそしたら、建て替えるってわかってたら香里に行ったら良かったねとかって、ふっふっふっふ。
Y: でも、逆かもわかりませんよ。こっちの環境の方がいいかもわかりませんよ。
U さん: そうですか。
Y: 新しくできた所の環境が悪くなっていった可能性も。
U さん: ああそうなんですか。
Y: 建物は新しくなってね。
U さん: そうなんです。
Y: 今おっしゃってるものもなくなってる可能性があります。それが、素晴らしい国の財産と思わないと。
U さん: そうそうそう。だから私この国はこのいい財産をどうするのかっていつもそれを思うんです。ほんとですよ。
Y: ほっといたら、悪くなりますからね。
U さん: もったいないですよ。だって、今度東京に行かれて。
N: はい。
U さん: 文京区?
N: 会社が文京区でぼくの住まいは豊島区なんです。
Y: きっとみじめなとこへ行くことになる。
N: (笑)。
U さん: 私御茶ノ水の所から湯島のところにカンノミヤ神社とかの所に住んでただけど。
N: はい。
U さん: 主人なんか国分寺とこだったんですけど、こーんなちょっとしたところ8万9万ですよ。
N: そうですね。
U さん: ねえ。
N: 全然ねえ。いい環境ではないですねえ。東京で日当たり求めること自体がもう無理ですもんね。
U さん: 無理だねえ。とっとと戻ってらしてください。
N: (笑)。
U さん: すいません。ちょっと、余計なことばかり言ってますね。
N: いえいえ。
A: ありがとうございます。
U さん: すいません。よかったんですか。
Y: いやいやもうすごくよかったです。
U さん: いやー、とても私は住居とてもありがたいと思ってますね。
Y: ここが良いという評価がね、お話うかがえたということはそれはいいお話でした。
U さん: すごくええ。子供たちも、ゆっくり子育てほんとになによりでした。ゆっくり子育てさせていただきました。
Y: お孫さんがまたこっちに帰って来てくれるようにですね。おっしゃって。誘導して。
U さん: 笑。でもお家持ちちゃったんです。ローン組んじゃないです。2人とももう。金利がほら安いすしね。

N：またワークショップの方もお待ちしてるんで。ぜひぜひ。またこんなお話をワークショップでしていただけたら。

Y：お知り合いの方ですね。またワークショップはワークショップでいいんですけどね。

Uさん：ええ。

Y：こういうことをもう少し続けていきたいと思ってるので、ご紹介いただいてね、どんな話でもいいし。色々なお話がうかがえたらいいなと思ってるんです。

Uさん：みなさん。

Y：ご紹介いただけたらと。

Uさん：みなさん、今日もちよっと友達いたんですけどね、だからほんとはあの。

N：はい。

Uさん：お掃除とかあったら出られてね。

N：あ、彼には自治会に入ってもらおうと思ってるんです。

Uさん：あ、そうなの。そうですよ、そうですよ。そうそうその方が。そうですよ。

N：この前もワークショップの時にCの…○棟あの方も○棟に住まわれてる方が来られて、ちょっとお名前ちょっと忘れたんですけど、自治会の方で集金係をされてる方。

Uさん：○棟で？

N：○棟…。いや、住まいは○棟じゃないんですけど、○棟を自分の担当で集金されてる。

Uさん：あ、髪こうあげてる方ですか？

N：そうですそうです。その方と一緒に集金を回れと。

Uさん：そうですか。じゃあよろしく。

Y：あの、力がありますしね、フットワークは軽いですからね、どんどん使っていただいたら。

Uさん：じゃあ自治会に入って協力されたらねえ。

A：はい。色々連絡取りあって。

Y：1年もしたらほっそり痩せて。

一同：(笑)。

Uさん：でも自治会だって入る人が少なくなってきた、で後ほら、前の行事行事ってこなすのでいっぱいだから大変だと思いますけど。

A：よろしくお願いします。

Uさん：ごめんなさい。よろしかったんですか。

N：いやいや。

Uさん：なんか1人でべらべらしゃべって。

Y：いやいや。

Uさん：すいませんでした。失礼します。

N：またあとで、ご挨拶だけ。

Uさん：いえいえ大丈夫ですよ。

N：あ、じゃあ彼よろしくをお願いします。

Uさん：失礼します。

以上